

**募集 ウィッツ青山学園高等学校  
入学者募集**

ウィッツ青山学園高等学校は、「意育」(自ら選択、決断することができる力を身につけることを目的とした教育)を理念に掲げる、市が認可した単位制の高等学校です。

平成23年度4月期の入学者を募集します。

**【募集人数】**

○全日制課程(寮生・通学生)  
普通科 20人

○広域通信制課程 200人

**【出願期間】**

1月12日(水)～3月31日(休)

※当日消印有効

**【受験料】** 15,750円

**【入試日】**

出願後に連絡します。

**【試験内容】** 作文・面接

**【合格発表】**

試験日から10日以内に発表

**【その他】**

○転入学についても、随時対応します。  
○個別学校見学会も実施していますので、電話・FAXなどでお申し込みください。

**【応募先・問い合わせ】**

〒518-0204

伊賀市北山1373番地

ウィッツ青山学園高等学校

(担当 井上)

☎ 53-1190 FAX 53-1192

**募集 離乳食教室**

赤ちゃんが生まれてから、はじめてお乳以外のものを口にするのが離乳食です。今回の実習では栄養士の話(1～2回食が中心)の後、実際に離乳食を作ってどのくらいの固さのものをあげたらいいのかを知ることができます。

**【と き】**

1月27日(休)

午後1時30分～3時30分

**【と ころ】**

いがまち保健福祉センター

**【内 容】**

講話「離乳食1～2回食を中心に」、離乳食の調理と試食、栄養相談  
※調理実習の際、先着5人まで託児があります。(電話予約制)

**【定 員】**

20人 ※先着順

**【持ち物】**

- ・母子健康手帳
- ・筆記用具
- ・エプロン
- ・三角巾
- ・手ふきタオル

**【申込受付開始日】**

1月13日(休)

※電話予約制

**【申込先・問い合わせ】**

伊賀支所住民福祉課

☎ 45-1015 FAX 45-1055



**献血のご案内**

● 1月10日(月・祝)

午前10時～11時30分

午後0時30分～4時

アピタ伊賀上野店



**募集 『仕事も大事!生活も大事!』  
仕事と生活の  
両立支援セミナー**

「仕事が忙しくて、子どもの顔を見ていない」「育児・介護休業などを詳しく知りたい」など、仕事と生活の両立について興味のある人は、「ワーク・ライフ・バランス」について考えてみませんか。

**【と き】** 1月29日(出)

午後2時30分～4時

**【と ころ】**

伊賀上野交流研修センター

**【申込方法】**

電話・FAX・Eメールのいずれかでお申し込みください。

FAX・Eメールの場合は、住所・氏名・電話番号を明記してください。

**【申込期限】** 1月21日(金)

**【申込先・問い合わせ】**

人権政策・男女共同参画課

☎ 22-9632 FAX 22-9649

☒ Jinken-danjo@city.iga.lg.jp

**聴診器  
市民病院だより**



**かんわ  
緩和医療をご存じですか**

外科 福浦 竜樹



緩和医療といっても皆さんにはなじみの薄い言葉かもしれませんが、ホスピス(終末期医療を行う施設)のほうがよく知られているのではないのでしょうか。

WHO(世界保健機構)の定義では、『緩和医療とは、生命(人生)を脅かす疾患による問題に直面している患者およびその家族の、QOL(人生の質、生活の質)を改善するアプローチ』とされています。苦しみを予防したり和らげたりすることでなされるものであり、そのために痛みそのほかの身体的問題・心理社会的問題・スピリチュアルな問題(人間全体を考えるとときに無視できない、目には見えないが、生きる意味や目的に関する重要な要素)を早期に発見し、的確な評価と治療を行うという方法がとられています。

平成18年にがん対策基本法が制定されて以来、緩和医療はがん診断初期から積極的治療と並行して行うべきであるとされ、診断の時以外

にも、根治治療、保存的治療、症状緩和治療へと治療目的が推移するごとに、緩和医療の役割を意識的に大きくしていくことが推奨されています。適切なケアを行うために、緩和医療では各々の患者様の治療目的が何かを正しく把握する要請が高くなっています。

具体的な処置としては、①告知時の精神的ケアや予後の説明のタイミングの見極め ②治療方針の選択や治療の場の選択への情報の提供 ③疼痛(痛み)管理 ④褥瘡(床ずれ)予防 ⑤経口栄養摂取困難時の栄養管理 ⑥蘇生措置を拒否するか否かの確認などの臨死期の措置 ⑦臨死期・死後の家族の悲嘆への配慮など多岐にわたっています。

このような、患者や家族が持つ苦痛を緩和することで、患者様のQOLを最大限高めることをめざしています。当院でも、少しずつこの問題に取り組んでおり、市民の皆さんにも今後いろいろな手段でお伝えしていきたいと考えています。



# 市立上野南中学校

## 校章・校歌（歌詞）を募集しています！

平成 24 年 4 月に「上野南中学校」が開校します。そこでこの新設校にふさわしい校章（シンボルマーク）・校歌（歌詞）を募集します。  
**※応募資格は問いませんが、応募は個人のみとします。**

**【募集期限】** 2月28日(月)

**【作成条件：校章】**

- ①上野南中学校がイメージできる図案としてください。
- ②校旗などにも使えるよう3色程度のカラー作品としてください。
- ③応募には、白地のA4用紙を使用し、中央部（1辺10cm程度の正方形内）にデザインしてください。

**【作成条件：校歌（歌詞）】**

- ①生徒の学校活動の様子が感じられ、明るく希望を抱けることや、校区内の特色や歴史が感じられ、地域にも親しみやすいものとなるよう配慮してください。
- ②A4用紙に横書きで歌詞を書いてください。
- ③歌詞は2番または3番までとし、漢字には「ふりがな」を付けてください。

**【留意事項（共通）】**

- ①デザインまたは歌詞の制作意

図をA4別紙に200字以内で記入して同封してください。

- ②作品裏面に氏名を、意図説明書に住所・氏名・年齢・電話番号を記入してください。
- ③作品は、自作未発表のもので、ほかの模倣でないものに限りです。
- ④作品は、郵送または持参でご応募ください。

**【審査】**

審査選考の上、7月末に決定予定です。結果は、直接本人に連絡するほか、伊賀市学校教育ネットワークホームページ (<http://www.iga.ed.jp/>) に掲載します。

**【表彰】**

賞状と副賞を贈呈します。

**【応募先・問い合わせ】**

〒518-8501  
 伊賀市上野丸之内116番地  
 伊賀市教育委員会教育総務課  
 校章・校歌公募係  
 ☎ 22-9675 FAX 22-9691

## 募集 第4回 美し国三重市町対抗駅伝 応援団員を募集します

**【とき】**

2月20日(日)

**【ところ】**

三重県庁前～県営陸上競技場

**【応募方法】**

住所・氏名・年齢・性別・電話番号を記入の上、市町対抗駅伝応援団参加希望と明記し、FAX・Eメール・持参のいずれかの方法でお申込ください。

**【募集人数】**

50人程度

**【応募期限】**

2月9日(水)

**【問い合わせ】**

スポーツ振興課

☎ 22-9680 FAX 22-9692

✉ [sports@city.iga.lg.jp](mailto:sports@city.iga.lg.jp)



## ご意見をお聞かせください

広報いが市・行政情報番組について、「もっとこうしてほしい」「こんな広報・番組だったらいいな」など、ご意見・ご要望をお聞かせください。

**【問い合わせ】**

秘書広報課

☎ 22-9636

FAX 22-9617



## 明日に 向かって

～差別をなくしていくために～

## 子どもたちは地域で見守りましょう

—健康推進課 地域医療対策室—

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています。

以前の職場で、地域の主任児童委員をしている人から、「近所のあるお宅の前を通る時、子どもの泣き声をよく聞くのだけど、虐待とは違うのかなあ。」と相談を受けたことがあります。訪問しても、インターホン越しでの対応で面会することはできなかったそうです。

確認すると、「子どもがいたずらばかりするので、叱らざるを得ないことが多々ある。」との返事でした。しかし、近所の人気がなる叱り方であるということは、何か問題を抱えているようで気がかりです。

最近特に、子どもを取り巻く環境の中で、虐待・放任・いじめなど、子どもの権利を侵害する状況が深刻化し、マスコミでも盛んに報道されています。

市内でも、昨年、児童に係る相談は160件ありました。中には、地域からの通報や、医療機関の医師からの訪問要請などもあり、私たちの身近なところで問題が起きていることがわかります。そのため、県と市が連携をしながら、子どもたちを見守ったり保護したりなど、さまざま

な形で対応しています。

「しつこいから」という理由で子どもに暴力をふるい、遂には、死に至る児童虐待が深刻な社会問題になっています。子どもは大人に比べ、権利を侵害されやすく、また、虐待は子どもの心身に重大な影響を与えるばかりでなく、次世代に「虐待の連鎖」が及ぶ原因ともいわれています。

そのような問題が起きないように普段から悩みを相談し合える友だちを持つことや、子育てサークルなどに参加して、お互いの状況を話し合い、情報を共有することで親としても成長していけるのではないのでしょうか。また、地域の子どもたちを守り育てるためにも、家族だけでなく、気がついた人が声をかけることができる環境が望ましいと思います。

地域で子どもを見守るよう声をかけ合い、未来ある子どもたちが健やかに育つ明るい社会に向けて、それぞれが心がけたいものです。